総務企画防災常任委員会行政視察報告書

大　谷　弥　生

〇栃木県大田原市

議会のタブレット端末導入について

本会議のインターネット配信について

【所　見】

東日本大震災で市役所庁舎も被災し、いまだに仮設の庁舎であることに到着後まず驚いた。復興には、時間がかかることを再認識した。

このような状況でも、議会においてはタブレット端末導入を先駆的に行っていること。それも市長等の執行部から議会へ打診があったこと。合わせて無線ＬＡＮ（Ｗｉ－Ｆｉ）の整備も行ったこと。そのうえ、新庁舎建設を待たずに必要としている時期に実施したことなど、震災に負けず前向きに歩んでいる姿勢を感じた。

私は、６月市議会定例会で、先輩議員が発言した用語がわからずに困った経験がある。タブレット端末等が持ち込めたら、即座に調べることができるのに、と感じた。また、資料のページ番号を聞きもらしても、事務局からの操作でタブレットの画面に資料を表示してもらえることは、市長等からの回答にこれまで以上に集中できると感じた。

コピー用紙や資料印刷による人件費等が削減でき、事業経費を差し引いても、年間約 50 万円の経費削減ができるというメリットも魅力的であった。既に使用している自前のタブレット端末と貸与される議会用のタブレット端末を常時２枚持ち歩くことに抵抗を感じていたが、対応策もわかり安心した。

説明から回答まで、同じ立場の委員（議員）の方から御教授を受けたことで、わかりやすく説得力があった。これからの議会運営の経費のスリム化効率化には、タブレット端末は必要なアイテムだと感じた。

本会議のインターネット配信については、今までは漠然とあれば便利であると感じていたが、今回の説明を伺いメリット（多くの市民が中継を見られる）やデメリット（不穏当な発言や個人情報が発言された場合、生放送なので対応できないこと）がわかり、自分の意見に前進があった。

個人的には、初期費用や経常経費が高額に感じた。費用対効果も考え、本市での実施については、更なる研究調査が必要であると思う。

○新潟県村上市

村上市人口減少問題対策「チャレンジプラン」の策定について

【所　見】

県境の市であること。夕日がきれいなまちであること。本市と似ている部分が多いとまず感じた。

市町村合併や東日本大震災、市長の突然の辞任など大きな事柄があったにもかかわらず、課題解決策をプラン化し、前向きに取り組んでいる様子が説明から伝わってきた。

特に「平成 26 年度から取り組む事業」と「中長期的に取り組む事業」を区分けしたことは、市民にとっても理解しやすいのではないかと感じた。

担当課長より「取り組めることから取り組む、失敗したら謝ります。しかしながら、お金をかけずにできることからやらせてください。と伝え、議会に理解を求めた。」との職員の姿勢には、感銘を受けた。

また、「行政に頼らずに自分のまちをよくしていく」という姿勢を持つキーとなる市民がいること。中間支援組織（ＮＰＯ等）に委託をしたら、その組織を信じて、細かいことに口を出さない行政職員。これからのまちづくりには、こういった関係性がやはり必要であることを再認識した。さらに、市民と一緒にまちづくりをしていけば、市民の満足度幸福度は高くなり、その結果、人口減少は緩やかになるのではないかと思う。本市でも、村上市の取り組みを見習っていくべきである。

余談ではあるが、鮭・酒・人情（さけ・さけ・なさけ）のキャッチフレーズも村上市の特徴をよく表現していると感じた。また、部長制度がなく、課長と支所長が議会に出席していると伺い、さまざまな行政スタイルがあることもわかった。